

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	名古屋大学	整理番号	G02
プログラム名称	PhD プロフェッショナル登龍門		
プログラム責任者	前島 正義	プログラムコーディネーター	杉山 直

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、PhD プロフェッショナルとして必要な5つのスポーク能力を得るため多くの取組が実施され、「シェアハウス」を導入することでカリキュラム外でも日本人学生と留学生がルームメイトとなるよう配慮し、異文化・異分野と接しながら英語で相互理解を試みることを日常化したことは評価できる。さらに、「学生交流室」を設けたことが、学生の単なる交流の場にとどまらず、野村総合研究所のマーケティング分析コンテストに文理融合チームで参加するなどの実績につながっており、自発的な活動を促進したことは高く評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、アンケートにおける学生のプログラムへの満足度は高く、特に英語力の伸長が著しいこと、「全国リーディング合同女子会」を企画・推進するなど自律的提案・解決能力、ディベート・自己表現力が育まれたこと、全学同窓会の利用やインターネットを利用したバーチャルな同窓会組織の構築が検討されていること、文系の修了者が理化学研究所の研究者として採用されたことなど、計画を超えた取組・成果として高く評価できる。一方で、辞退率は低くなく、修了者の就職先として、官公庁や国際機関への就職がみられないなどの点に対しては「フロンティア・アジアで、リーダーとして活躍する人材」や「ものづくり再生に資するオールラウンド型人材」という目標へ向かって引き続き努力が期待される。

事業の定着・発展については、支援期間終了後に本プログラムを継続するための3年分の予算が確保されており、加えて、プログラムの内容の効率化及び整理を行っていることは評価できる。また、本プログラムのトランスファラブル・スキル教育や実践的な英語教育、体験的課題理解のための海外実地研修等のレガシーを引き継ぐ「博士課程教育推進機構」を設置したことに加え、英国の Vitae をベースに独自のスポーク能力の評価法を作成したほか、「次世代のリーダーを担う博士人材の育成」と題するテキストを刊行し、本プログラムが学内外で継承されるよう整えたなどの点で、当初計画を超えた取組を真摯に推進したことは高く評価できる。